

<東北税理士会会長賞>

みんな知ってる？入湯税

会津若松市立第二中学校 1年 川俣 幹裕

僕たち家族は、よく旅行に行きます。そのとき、温泉のあるホテルにも泊まります。温泉を予約するのはいつも父で、ポイントが貯まるからと言って、いつもインターネットで予約しています。支払いはクレジットカードの事前決済だそうです。

しかし、ホテルのフロントで手続きするときに、いつも父はお金を払っています。しかも数百円だけのように見えます。僕は不思議に思い父に聞いて見ました。

「ああ、これは入湯税だよ。」

という父の言葉を聞いてすぐに税金のことだということはわかりましたが、僕は税金の種類は所得税や消費税、法人税などしか聞いたことがありません。だから、てっきり父が冗談で言ったと思いました。それと同時に疑問も持ちました。

「宿泊費は事前に支払っているはずなのに、当日に払うあの少しのお金はなんだろう。」

旅行で一瞬忘れかけていたその疑問を帰ってきてから調べてみました。すると、入湯税が本当にあることが分かったのです。

入湯税とは、温泉を訪れた人が一人一日あたり150円程度を、利用する当日に直接支払うもののようです。そしてそのお金が温泉がある市町村の収入となり、観光施設の整備、鉱泉源の保護、管理施設の整備などに使われているということが分かりました。例えば、箱根温泉で有名な神奈川県箱根町では、一年間で6億円以上の入湯税収入があります。その6億円を使って、環境衛生施設整備費や環境振興費、誘客、宣伝、観光施設整備費、消防関連費などに使われています。群馬県の草津町ではあの有名な湯畑の管理に使用されています。このように市町村によって使い方の違いはあるようです。

これらに共通することは温泉地を守り、発展させ、さらに魅力的な温泉地にするた

めに入湯税が使われているということです。

温泉を地下からくみ上げるにもお金がかかるし、安心、安全な温泉施設を運営するためにもお金がかかります。「〇〇温泉花火大会！」のようなポスターもよく見かけますが、もちろんお金がかかっているでしょう。このことを知って僕は、僕らが払う数百円の税金のおかげで温泉を快適に楽しむことができているんだな、と思いました。

日本にはこのように少し変わった税金が他にもあるようです。一見、どうしてそんな税金があるのか疑問を持つようなものもあります。ですが、全ての税金には意味があり、社会をよくするために使われているのだということを考えるようになりました。

みなさん、楽しい思いをした温泉がさらに良い所に発展して、また来たい場所になるように、これからも入湯税を、

「払おうぜい！」